

一般講演Ⅱ

座長：昭和大学 小川 良雄

**5. 結石の自排石促進作用に対する
猪苓湯の有効性の検討**原三信病院 泌尿器科
志賀 健一郎

【目的】尿路結石の治療は、ESWL、TUL、PNLなど手術療法の発展により、この30年間で急速な進化を遂げている。しかしながら、治療後の残石の問題や、自然排石が見込まれる症例にも適応が広がるなどの問題もある。薬剤による結石排石促進療法を見直すことは、これらの問題を解決する一助となる可能性がある。

α 1遮断薬は最も多くのエビデンスが存在し、メタアナリシスでもタムスロシン内服群で自然排石率が有意に高く、排石までの時間が有意に短縮されたとの報告がある。ただし、我が国の通常使用量の2倍の用量での結果であり、尿路結石への保険適応はない。

我が国では、結石の排石促進目的にウラジロガシエキスや猪苓湯などの漢方薬などが使用されており、尿路結石症に対する保険適応が認められている。猪苓湯は茯苓、猪苓、阿膠、滑石、および沢瀉の5つの成分からなり、これら生薬の薬理作用としては、利尿作用、血液凝固抑制作用、抗脂肪肝作用などがある。従来、尿路結石症に使用されており、エビデンスレベルは高くないものの尿路結石の自然排石やESWL後の排石促進効果などについての報告も散見される。今回、尿路結石症の自然排石を目的に猪苓湯が投与された自験例について、その有効性や有害事象などをまとめたので報告する。

【方法】当院にて上部尿路結石と診断され、平成27年5月1日から同年7月31日までに結石の自排石を目的に猪苓湯を処方された14例を対象とし、自排石の有無や有害事象の有無などを検討した。統計解析は猪苓湯投与開始日を起算日とし、自排確認日あるいは平成27年10月31日を終了日とした。

【結果】年齢の中央値は49歳 [43, 61.25] (以下表記は「中央値 [四分位範囲]」)。男性が11例、女性が3例であった。BMIは23.15 kg/m² [20.26, 27.8]。主結石の長径は5mm [3.75, 10] で、そのうち4例は10mm以上であった。結石の位置はR2が1例、R3が2例、U1が5例、U2が2例、U3が4例であった。猪苓湯の投与期間は30日 [28, 33]、観察期間は107.5日 [53.75, 132] であった。

14例中自排石のあったものが8例 (57.1%) であった。結石の長径で見ると、5mm未満の6例のうち、自排石を認めたものが3例 (50.0%) であった。また、10mm以上の4例でも、3例 (75.0%) に自排石を認めた。14例中、特に有害事象を訴えたものはなかった。

【考察】自験例においても、猪苓湯は有効な結石排石促進作用を持つ薬剤であることを確認することができた。また、目立った有害事象も観察されなかった。今後、症例数を増やし、猪苓湯の有用性を検討したい。

【結論】自験例による、結石の自排石促進作用に対する猪苓湯の有効性を検討した。